

総合地球環境学研究所実験施設利用負担金規則

平成 28 年 2 月 23 日制 定

規則第 84 号

令和 6 年 4 月 8 日最終改正

(趣旨)

第 1 条 総合地球環境学研究所実験施設利用規則（平成 25 年 7 月 23 日制定規則第 82 号。以下「利用規則」という。）第 11 条第 3 項の規定に基づき負担すべき実験施設利用負担金（以下「利用負担金」という。）の額及びその負担方法については、この規則の定めるところによる。

(利用負担金の額)

第 2 条 利用負担金の額は次のとおりとする。

- 一 実験施設を利用する総合地球環境学研究所（以下「研究所」という。）の研究プロジェクト（フルリサーチのみ）は、利用期間に関わらずプロジェクト等ごとに年額 10 万円とする。
- 二 利用規則第 8 条第 1 項において別に定める共通機器は別表のとおりとし、その額については、別表に掲げる区分に応じた利用負担金額により計算したそれぞれの額の合計額とする。
- 三 所長が特に必要があると認めたときは、実験施設委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、利用負担金の全部又は一部を免除することができる。

(利用負担金の決定)

- 第 3 条 基盤研究部計測・分析部門長（以下「部門長」という。）は毎年度、10 月、1 月、2 月及び 3 月の初旬に、前月末までの実績に基づいて、利用者ごとに利用負担金を集計し、額の決定を行うものとする。ただし、部門長が必要と認めたときは、随時に額の決定を行うことができる。
- 2 部門長は、前項で決定した額について、委員会へ報告するものとする。
 - 3 第 1 項で決定した額については、研究支援課で予算振替依頼書を作成し、財務課へ提出するものとする。

(負担の方法)

- 第 4 条 利用負担金の負担は、前条第 3 項で作成された予算振替依頼書を基に、次の各号に掲げる方法によるものとする。
- 一 研究所における運営費交付金については、予算振替によるものとする。
 - 二 研究所における科学研究費補助金、寄附金、受託研究費等の外部資金については、研

究所にて発行する請求書により財務課で、指定口座に振込むものとする。

三 研究所外の予算については、研究所にて発行する請求書により定められた期日までに、利用者が指定口座に振込むものとする。なお、振込手数料は、利用者の負担とする。

2 研究所における外部資金及び研究所外の予算については、決算の都合上、2月実績分までを請求の限度とする。

第5条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、委員会の議を経て、所長が定める。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年2月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年3月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月8日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

別表

共通機器課金単価表(2024年度)

設置場所	装置名	共通機器名(申請書リスト名)	摘要	課金単価(税込)	測定予定試料・時間数推計上の目安・備考
実験室03	マイクロダイセクター	ダイセクター	マイクロスケールでの試料切断・回収	なし	備考1
	マイクロドリル_ジオミルシステム	Geomi l	マイクロスケールでの試料切削・回収	なし	備考1
	多機能顕微鏡	顕微鏡	組織や構造の観察	なし	備考1
実験室06	マイクロ波試料分解装置	マイクロ波分解	ICP-MS等の試料の前処理	なし	備考1
実験室07	ガンマ線スペクトロメーター	γ線		2円/100秒	1 サンプルの測定時間: 約72時間
	表面電離型質量分析装置(TIMS)	TIMS-W-filament	ストロンチウム等の同位体	1,500円/測定	未知試料数×1.1(標準試料込み)
		TIMS-Re-filament	ネオジミウム等の同位体	2,200円/測定	未知試料数×1.1(標準試料込み)
		TIMSのみ	利用者選定同位体	3,000円/日	標準物質・フィラメントは利用者が用意すること
	表面電離型質量分析装置(TIMS) ※10 ¹³ Ωアンプを使用	微量TIMS-W-filament	微量なストロンチウム等の同位体	1,500円/測定	未知試料数×1.1(標準試料込み)
		微量TIMS-Re-filament	微量なネオジミウム等の同位体	2,200円/測定	未知試料数×1.1(標準試料込み)
		微量TIMSのみ	微量な利用者選定同位体	3,000円/日	標準物質・フィラメントは利用者が用意すること
	高分解能マルチコレクター誘導結合プラズマ質量分析装置(MC-ICP-MS)	MC-ICPMS-only	多元素同位体測定: 試料作成を含まない	3,000円/時間	Sr: 未知試料数×1.2(標準試料込み), 10分/測定
		MC-ICPMS-set	多元素同位体測定: 試料作成を含む	4,000円/時間	Pb: 未知試料数×2(標準試料込み), 15分/測定
	高分解能マルチコレクター誘導結合プラズマ質量分析装置(MC-ICP-MS) ※10 ¹³ Ωアンプを使用	微量MC-ICPMS-only	微量な多元素同位体測定: 試料作成を含まない	3,000円/時間	Sr: 未知試料数×1.2(標準試料込み), 10分/測定
微量MC-ICPMS-set		微量な多元素同位体測定: 試料作成を含む	4,000円/時間	Pb: 未知試料数×2(標準試料込み), 15分/測定	
実験室08	誘導結合プラズマ質量分析装置(ICP-MS)	ICP-MS	無機多元素質量分析	2,500円/時間	未知試料数×1.5(標準試料込み), 10分/測定
	元素分析装置付き安定同位体比質量分析計(EA-IRMS)	CN-IRMS	有機物のC, N同位体	105,000円/サイクル	1サイクルでの測定可能数(標準試料込み)は100~400程度(試料による), 備考2・3
		CN微量-IRMS	微量な有機物のC, N同位体	96,000円/サイクル	1サイクルでの測定可能数(標準試料込み)は80~250程度(試料による), 備考2・3
	オンラインガス調製/導入システム付き安定同位体比質量分析計(CB-IRMS)	炭酸塩-IRMS	炭酸塩, Di OのC, O同位体	200円/測定	未知試料数×1.1(標準試料込み)
	熱分解型元素分析装置付き安定同位体比質量分析計(TC/EA-IRMS)	有機物CH-IRMS	有機物のC, H同位体	400円/測定	未知試料数×1.5(標準試料込み)
		有機物H-Cr-IRMS	有機物のH同位体(N含有有機物など:比較平衡法)	450円/測定	未知試料数×1.5(標準試料込み)
		有機物H-Cr-IRMS-UP	有機物のH同位体(N含有有機物など:UniPrep水平衡法)	80,000円/サイクル	1サイクルでの測定可能数は目的により変わるため事前に要相談, 備考2
	元素分析装置付き安定同位体比質量分析計(EA-IRMS)	S-IRMS	無機・有機物のS同位体	78,000円/サイクル	1サイクルでの測定可能数(標準試料込み)は100~200程度(試料による), 備考2・3
	デュアルインレット分析(Dual Inlet-IRMS)	Dual Inlet-IRMS	ガス態の同位体	なし	標準ガスは利用者が用意すること
	水平衡装置付き安定同位体比質量分析計(水平衡CH-IRMS)	水平衡CH-IRMS	水のH, O同位体	要相談	分析数に依存するため、あらかじめ相談すること
ガスクロマトグラフ燃焼装置付き安定同位体比質量分析計(GC/C-IRMS)	GC/C-IRMS	化合物レベル同位体	要相談	分析試料・手法により変動するため、あらかじめ相談すること	
実験室10	誘導結合プラズマ発光分光分析装置(ICP-AES)	ICP発光	無機多元素同時定量	1,500円/時間	未知試料数×1.3(標準試料込み), 5分/測定
	誘導結合プラズマ質量分析装置(ICP-MS/MS)	ICP-QQQ	無機多元素質量分析	2,500円/時間	未知試料数×1.5(標準試料込み), 10分/測定
	水同位体比分析装置(CRDS)	Pi carro	水のH, O同位体	400円/測定	未知試料数×1.5(標準試料込み)
	イオンクロマトグラフ(IC)	イオンクロ	溶液中の無機イオン濃度	400円/測定	未知試料数×1.3(標準試料込み)
実験室11	低温灰化装置	低温灰化	揮発性無機元素の損失を抑えた灰化处理	なし	備考1
実験室17	試料粉碎装置ミキサーミル	ミキサーミル	少量の試料の粉碎	なし	備考1
	試料切断研磨装置	Discoplan	岩石等の固体試料の切断および研磨	なし	備考1

備考1: 試料前処理に用いるものであるため、単独での課金は発生しない。

備考2: CN-IRMS, CN微量-IRMS, S-IRMSおよび有機物H-Cr-IRMS-UPは、装置の立ち上げ回数(サイクル)に応じた課金となっている。分析数(標準試料込み)が少ない場合は、他の利用者と1サイクルをシェアして利用することも可能である。シェア利用を希望する場合は、申請時にその旨を明記すること。詳細は、毎回の装置利用申請後、計測・分析部門と相談の上決定する。

備考3: ヘリウム供給難の現状を鑑み、当面は1サイクルでの測定数におおよその下限を設けることとする(生物試料の場合、標準試料込みの測定数が、CN-IRMS:約250以上、CN微量-IRMS:約170以上、S-IRMS:約100以上。他の種類の試料については計測・分析部門まで問い合わせること)。測定数がこれを下回る場合は、他の利用者とのシェア利用となる。